

組合基本方針

組合の団結と調和

平成 21 年度事業展開について

本年度は、役員改選であります。新体制につきましては総会終了後の団地ニュースでお知らせさせていただきます。

流山工業団地協同組合の平成 21 年度の事業展開につきましては、組合方針を下記の通り掲げました。

組合運営原点回帰

後継者の育成

経営革新に取組み発展基盤を強化（中小企業新事業活動促進法にのった経営革新チャレンジ）

重点事業としては、

1. 後継者教育 青年部事業の育成、強化

後継者により組織されている青年部につきましては、後継者としての資質向上を目指し、経営に関する勉強会、組合事業の援助を行ない、会社経営だけでなく組合運営についても学んでいただく予定です。

2. 平成 23 年 3 月返済完了後の組合運営のあり方

平成 23 年 3 月に土地、建物の償還が完済することから、その時に発生する種々の問題点について、千葉県中小企業団体中央会より組合等新分野開拓支援事業の助成を受け、組合員企業の考え方を取りまとめ、最終結論を青年部を交え導き出したいと考えています。

3. たんぽぽ計画 職場環境の再確認及び必要資格の取得

たんぽぽ計画による事業では、職場環境の再確認（職場環境測定）と企業として必要な資格を確認し、従業員に取得をしてもらい環境の整備を実施する予定です。

4. B C P、防災マニュアルの作成

B C P、防災マニュアルについては引き続き作成を援助し、作成を希望する組合員に作成をしていただく予定です。

5. 経営革新への取組 中小企業新事業活動促進法への申請

100年に一度といわれる不況の中、より援助を受けられるために中小企業新事業活動促進法による認定を多くの企業に申請していただくため、千葉県中小企業団体中央会、千葉県産業振興センターにご協力いただき、推進する予定です。

総務委員会では、組合にある規約、規定等について見直しを行い、事業委員会では、地球温暖化対策としてCO2の削減のために太陽光発電に関する調査、研究を行なう予定です。

以上を事業として行なう予定です。

事業実施につきましては、関係各位のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

年度方針

経営革新に取組み発展基盤を強化

後継者の育成

組合課題取組の具現化

23年問題研究会 報告会



千葉県中小企業団体中央会より組合等新分野開拓支援事業の助成を受けて実施した研究会の活動報告について、取りまとめをお願いした中小企業診断士 安藤先生より4月27日に全体会開催前に行なわれた。

今回の研究会の目的は、償還完了後の所有形態が一番大きな問題になり、所有形態を変更すると多額の租税負担や組合事業の安定継続に対するリスクが想定され、これを十分検討したうえで所有形態を決定することにある。

研究会では、所有形態を変更した場合の問題として転貸融資、団地の一体性維持、公租公課の発生等を認識すること

に始まり、組合として知りたい点について先ず全国工場団地協同組合連合会に加入している東日本地域の先進団地にアンケートの調査を実施し、集計結果により所有形態の分析、第三者対抗要件の設定等について研究を進めた。回答をいただいた中で千葉鉄工団地（協）、川越工業団地（協）、清水港木材団地（協）、磐田さぎさか工業団地（協）の4団体の先進団地には、訪問させていただきヒヤリング調査を実施し、詳細な説明を受け、当組合として調査、研究するべき点が明確になった。

今後は、組合員企業への詳細な説明、意見聴取、契約、転貸融資に関する制度の検討、租税公課の発生の有無等について研究を進めたい。

外国人研修生 合同研修

2月9日に来日した中国人研修生3名は、2月10日より3月8日まで栃木県小山市にあるティビィシー国際外語学院で行なわれた合同研修を終了し、3月9日流山工業団地協同組合で実施する、流山市に住むための合同研修が実施された。

午前中は、流山市へ外国人登録証明書の申請を行い、昼食後、実務研修のための注意事項、研修時間外（夜、休日）での注意、病気、ケガ、トラブルの注意について説明、日本語勉強の為の日記の書き方、制服の確認を行なった。自転車でアパートに帰り通勤経路の確認と、近隣スーパー、銀行、郵便局について実際に案内し説明を行なった。

3月10日は、流山市北消防署による防火に関する講習会、流山警察署交通安全課による交通安全の講習会を行い、補足説明としてアパートでの生活態度、ゴミの出し方、自転車の乗り方等について説明を行なった。

昼食後、受入企業において安全講習を行い、2日間の流山研修が終了した。

今後も組合、受入企業と協力し、研修生3名が無事実習生になり3年間研修できるように援助をしていきます。



南極旅行

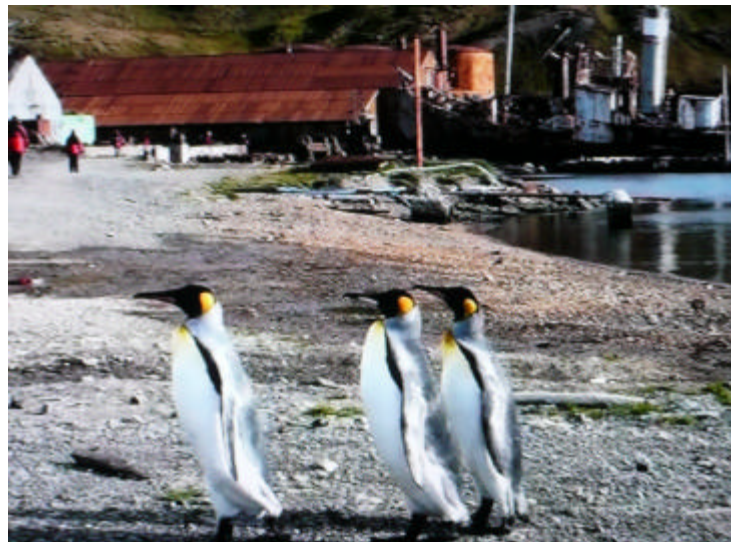
(株)ファンケル美健 池森政治



南米アルゼンチンの南端ウシュアエアから船で14泊の航海。出航2日目イギリス領のフォークランド島着、見学。更に2日目サウスジョージア島に上陸。キングペンギン50万羽のコロニー(写真)を見た。その大群にビックリ。オットセイやアザラシ、カモシカ等も居ます。これだけの動物達が食べていけるオキアミなどの食料が、南極海には沢山いるのです。ペンギンやオットセイの子は、人を怖がらず好奇心から寄って来ますが、絶対に触ってはいけません。子供に人の匂いが付くと、親が自分の子と判別出来ず、餌を与えなくなるからです。

領土拡大をねらった大航海時代の1773年、イギリス人ジェームズ・クックが初めて南極圏に入った。クックの情報からアザラシや鯨の大群を知り、灯火用油としてこれらの捕獲基地、工場が作られた。しかし領土的な問題は、南極条約の下、政治的にどの国にも属さない特別の地位、人類共通の財産とした。素晴らしい条約だ。

この旅で、捕鯨解体に使われた廃工場を2箇所見た。アスベストが危険なので、近づくなと言われた。しかしペンギンなど周辺で生活している動物達(写真)の健康はどうなるのか。日本の「合法的鯨類捕獲調査」を妨害する団体のグリーンピースやシーシェパードに言いたい。各国の莫大な軍事費のほんの1部をこちらに回し工場を解体しようといった運動をした方がよほど説得力があると。



船内では、色んなレクチャーが毎日行われていた。南極で越冬隊を経験したドクターの話、南極の生物や地質学を研究している人、宇宙を研究している人、写真の撮り方等々。

ピアノ演奏のあるバーや、ジャズバンド、広いデッキで生演奏を聞きながらの昼食。映画。その気になれば全く退屈しません。ただし、英語が良く理解できればの話です。

毎日欧米食です。カップラーメンやインスタント味噌汁を持って行って正解でした。

私たちの船・ミネルバ号には乗客180人、内日本人は13名。乗務員は客と同じ180人、船長はスペイン人、その他アメリカ、イギリス、フィリピン人も多く働いていた。

ビデオや写真も沢山撮って来ました。参加者は70歳以上が多いですが、重いカメラを2台もぶら下げていました。皆元気です。

「進行方向基準、2時の方向に鯨発見」と船内放送があると皆カメラを取って部屋から飛び出して行きます。夏なので太陽は白夜に近く長時間出てますが、日本のように頭上では無く、地平線のすぐ上を右から左に長い距離を動いて行きます。夕焼けは綺麗な茜色で、白銀の世界ですから反射して、空と海を広く染めていました。

船は魔のドレーク海峡を往復で越しますが、全く揺れず拍子抜けでした。1年の内5日間ほど波が無い時があるそうです。きつい船酔いを経験してみたかった！！？

流山工業団地の青年部企業を中心にダンボール、コピー用紙、雑紙等の紙資源を平成20年度に下記の表の通り回収を行ないました。

単位：kg

	平成20年度累計
書 類	7,080
段ボール	169,000
計	176,080

回収したリサイクル資源は、ボックスティッシュ29箱（1,740個）と交換し、協力していただいた企業に配布いたしました。

紙資源を償却処分に出さずに、リサイクル資源として活用できればCO2削減にもつながりますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

==== 事務局だより =====

- 3月 9日(月) 外国人研修生 流山合同研修
~ 10日(火)
- 3月12日(木) 高度化資金借り入れに伴う会計検査院の調査
- 4月 5日(日) 流山市商工会北部支部 さくら祭り
- 4月20日(月) カラーコピー機 搬入
- 4月27日(月) 23年問題研究会 報告会
- 4月29日(水) 受電設備点検 実施
- 5月 3日(日) 受電設備点検 実施
- 5月 4日(月) 受電設備点検 実施
- 5月 5日(火) 受電設備点検 実施



被害

5月5日(火) 深夜に自動販売機荒らしによる犯行で、清涼飲料水自動販売機2台、アイスクリーム自動販売機1台が損壊される被害が発生し、合わせて購入したばかりの組合の車両もドアノブ付近を破損され、ドア交換になる被害を受けました。

編集後記

日本は加工輸出国です。物資を加工し付加価値をつけて、輸出販売することでしか外貨を得ることはできず、外貨を得ることができなければ、食糧や資源を手に入れることができません。これは根本的な問題で、死活問題です。そしてその加工の部分を含めて今まで大きく担ってきたのは、全国の様々な分野の中小零細企業であったであろうと思います。

然るに、現状の大手企業の方針含め、国際競争力を得る為に、又は企業業績を改善する為に、この不況下で益々国内産業の空洞化は進んでいると思います。それでも同じ製造業の中で、全く影響を受けずどんどん業績を伸ばし、自社をより強固なものへと変貌させている企業もあります。その様な企業は、運や縁などもあるかもしれませんが、須くある転機において凄まじい努力と変化を遂げているのだと思います。今は、

企業が大変厳しく試されている時期であり、ここを如何にして生き残るかをひたすら考え行動するしかありません。社員と力を合わせ我々にはそれしかできないと思います。

一つだけ望むのは、国家国政において、日本は如何にして生きていくのか。目先だけではなく、少子化や生活水準、食糧資源問題、内需浮揚など、国策として本気で長期的に取り組まれることです。この先の日本にもう少し明るさが見えれば、もっと元気が生まれてくるはずで、その日までがんばってまいりましょう。

長浦謙太郎

流山工業団地協同組合

編集・発行：青年部

〒270-0107 流山市西深井 1028-46

電話 04(7153)3001